

十二月の天象

太 陽

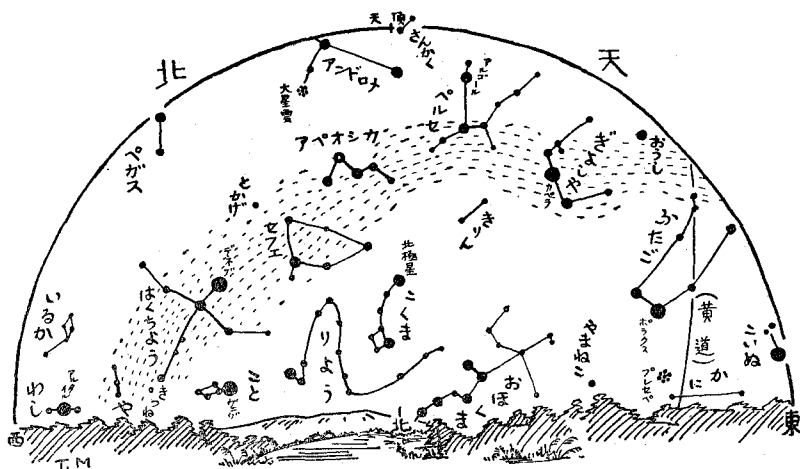
日	赤 經	赤 緯	星 座	視直徑
1	16時26分17秒	南21度42分	へびつかひ	32分30秒
11	17 9 52	22 57	へびつかひ	32 33
21	17 54 6	23 27	い て	32 35
31	18 38 29	23 9	い て	32 36

月始め人馬宮にあるが、22日から磨羯宮に侵入する。即ち此の22日の午後4時53分に冬至點に達する。その時の赤緯は南23度27分である。月末になる程、地球は太陽に近づき、31日には視直徑は殆んど最大の32分35・秒58となる。

月

月の相	時 刻	星 座	視直徑
新 月	1日午後 1時48分24秒	へびつかひ	29分59秒
上 弦	9 午後 6 41 42	みづがめ	30 14
満 月	16 午後 8 38 12	う し	33 18
下 弦	23 午前11 27 18	なごめ	31 37
新 月	31 午前 8 41 42	い て	29 30
遠地點通過	5 午後 2 24	い て	29 29
近地點通過	17 午後 9 6	ふたご	33 22

今月は、先づ1日午後3時半に、火星に追ひ附くのが遊星歴訪の始まりで、續いて、3時間後の午後6時半には水星を追ひ越す。併しながら此の頃は殆んど新月であるので、見る事は出来ない。更らに3日午前9時には、土星を追ひ抜くのだが、時刻が悪くて見られない。其の後暫らくは、遊星のゐない所を進んで、11日午前8時に、天王星に出合ふが、此れも時間の都合が悪い。更らに15日午後10時31分に、水星と出合つて其の北側を通過する。これはよく見えるが、折角の此の景色も、二星の距離が3度も離れてゐては、あまり面白くもない。21日午後9時に海王星と出合ふ。30日はとても忙がしい。即ち正午に金星を追ひ越し、午後4時に火星を追ひ抜き、午後10時に土星を追ひ越して、更らに、もう一步で水星に追ひ附くと言ふ場面で今年の幕が下りる。



恒 星 界

木枯しの彼方に白鳥は没し、新年の用意にミシリウスが昇る。何時の世にも、星の刻みのみは厳かに、遅速なき歩みを進めて行く。

秋の星座が静かな歩調で西へ移るに、オリオンの三ツ星が宵の東天に現はれて、「冬が来たんだよ」と騒ぐ。天の河は東北の空に、弱い光を現はしてゐるが、それに沿ふては、一流のシリウス、リゲル、プロシオン、ベテルギウス、カストア、ポルクス、カペラ等の一等星が青や赤、或は黄、色こりこりに輝いて、愈々、全天中最も華やかな部分が。今我々の眼前にある。しかも、其の間々には、姿やさしいブレアデスや、赤い顔したヒヤデスが現はれ、アルゴールの愛嬌者も混つて、此の頃の夕べの空は、なかなか賑やかな事である。

此の賑やかな所に、例の木星が、大家族を引き具して、お仲間入りをしているのは、一層よく眼立つ。

併しながら木星を除いた他の遊星は、木星の東に海王星、西に天王星丈で、残りは全部、太陽の傍にかたまつてゐるので淋しい。

